

大学等名	大妻女子大学短期大学部
プログラム名	大妻データサイエンス・AIプログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

全学共通科目：「データサイエンス・AI概論」および「コンピュータ基礎B」の2科目4単位を修得すること。

必要最低科目数・単位数 科目 単位 履修必須の有無

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データサイエンス・AI概論	2	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータ基礎B	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス・AI概論」(第1回、第2回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス・AI概論」(第1回、第2回) ・ビッグデータ(第2回)
	1-6 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「データサイエンス・AI概論」(第2回) ・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など)「データサイエンス・AI概論」(第2回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「データサイエンス・AI概論」(第3回～第6回) ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など)「データサイエンス・AI概論」(第7回) ・データのオープン化(オープンデータ)「データサイエンス・AI概論」(第5回)
	1-3 ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データサイエンス・AI概論」(第3回、第8回、第12回) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データサイエンス・AI概論」(第5回、第6回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「データサイエンス・AI概論」(第5回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など「データサイエンス・AI概論」(第9回～第13回) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データサイエンス・AI概論」(第7回、第8回、第11回) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「データサイエンス・AI概論」(第8回、第9回)
	1-5 ・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「データサイエンス・AI概論」(第9回～第13回) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「データサイエンス・AI概論」(第9回～第11回)

(4) 活用に当たつての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)「データサイエンス・AI概論」(第14回) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データサイエンス・AI概論」(第14回) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データサイエンス・AI概論」(第14回) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データサイエンス・AI概論」(第14回) ・AIサービスの責任論「データサイエンス・AI概論」(第12回)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性「データサイエンス・AI概論」(第15回) ・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「データサイエンス・AI概論」(第15回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス・AI概論」(第15回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「コンピュータ基礎B」(第1回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「コンピュータ基礎B」(第3回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値=最頻値でないことが多い)「コンピュータ基礎B」(第3回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ)「コンピュータ基礎B」(第6回～第8回) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「コンピュータ基礎B」(第6回～第8回) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「コンピュータ基礎B」(第12回、第13回)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「コンピュータ基礎B」(第4回) ・データの集計(和、平均)「コンピュータ基礎B」(第3回) ・データの並び替え、ランキング「コンピュータ基礎B」(第3回～第5回、第9回～第11回) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「コンピュータ基礎B」(第1回、第14回、第15回) ・表形式のデータ(csv)「コンピュータ基礎B」(第1回、第14回、第15回)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・データサイエンスやAIが身近にあるさまざまな事象とどのように関係しているかを学び、それらを活用することの楽しさや学ぶ意義について理解する。
- ・データサイエンス・AIを活用する上での留意事項や情報セキュリティ、情報漏洩等、データを守る上での留意事項を理解する。
- ・社会における実データを含む多くのデータから、必要とする情報を抽出するスキルを身につける。
- ・抽出結果を読み解き、それら情報の関係を分析、考察し表現できる力を身につける。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和5年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数

男性 0人 女性 302人 (合計 302人)

(令和6年5月1日時点)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
国文科(R6年度以降募集停止)	17	0	45	0	0	0	0									0	0%
英文科(R6年度以降募集停止)	15	0	45	0	0	0	0									0	0%
家政科	270	260	520	5	1	1	0									6	1%
合計	302	260	610	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

 (1) 全学共通科目の基礎科目区分Ⅱリテラシーのうち、情報リテラシー科目の企画・運営・人事等に関する事項
 (2) 大妻データサイエンス・AIプログラムの自己点検・評価および改善に関する事項
 (3) 部会内規の改廃に関する事項
 (4) その他、調整委員会委員長からの依頼事項

⑦ 具体的な構成員

 (1) 調整委員会委員長の指名する専任教員 若干名
 ・山倉 健嗣 全学共通科目調整委員会委員長・副学長(教育担当)／部会長
 ・市川 博 家政学部ライフデザイン学科教授
 ・小野 茂 社会情報学部社会情報学科教授
 ・八城 薫 人間関係学部人間関係学科教授
 ・豊田 雄彦 短期大学部家政科教授
 (2) 安倍 達哉 教育支援センター部長
 (3) 西田 裕貴 教育支援グループ課長
 (4) 榊 澁 富士子 メディア教育開発グループ課長
 (5) その他部会長の推薦する者 若干名
 R6は推薦者なし。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	1%	令和7年度予定	2%	令和8年度予定	3%
令和9年度予定	4%	令和10年度予定	5%	収容定員(名)	610

具体的な計画

プログラムの科目はすべて配当年次が1年次のため、入学前に配付する冊子『新入生案内』に大妻データサイエンス・AIプログラムの案内を掲載するとともに、4月の履修登録時に行われるクラス別ガイダンスにおいても、クラス指導主任から『履修登録の手引き』を通して、このプログラムを履修することの利点を説明している。また、プログラム修了者アンケートの結果は、HPで公表し、プログラム履修への意欲向上を図っている。

さらに本プログラムの修了者には修了証をオープンバッジで発行し、学習歴のデジタル化にも対応している。その他、プログラムに関係する科目のうち、共通科目である「データサイエンス・AI概論」は、後期のオンデマンド科目として配置することで、前期履修登録の結果、上限人数に満たないコマについては後期履修登録の機会を設けることを可能としている。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムの科目は、全学共通科目の2科目（「データサイエンス・AI概論」「コンピュータ基礎B」）で構成されており、プログラムの履修を希望する学生全員が受講可能となっている。また、プログラムを進化・改善する組織である情報リテラシー教育検討部会は、全学共通科目の教育課程の運営・管理を所掌している全学共通科目調整委員会の部会に位置付けられており、各学部教授会には当該委員会委員を通じて情報共有が行われているため、全学的な連携体制が整っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

できる限り多くの学生が履修できるよう、次のような取り組みを行っている。

- ・新入生発送資料やガイダンス配付資料を活用し周知するとともに、1年次全員にポータルサイト（UNIPA）から周知をしている。
- ・大学ホームページにプログラムに関する特設ページを設け、学修成果や後輩等他の学生への推奨度を確認するアンケートなどの結果を積極的に公開している。
- ・プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」は、大学を含む複数学部の教員が担当することで特定の学部には偏らない内容になるよう工夫している。
- ・前期教務委員会において、後期履修登録、他キャンパス履修、単位互換の日時や手続き方法を教職員で共有しており、上限に達していないプログラム科目について追加登録をするよう促している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

できる限り多くの学生が履修・修得できるように、次のようなサポート体制をとっている。

- ・プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」は、オンデマンド授業で実施しており、学生の理解度によって、繰り返しの視聴を可能としている。
- ・「データサイエンス・AI概論」は複数学部の教員が担当することで、多様な学生からの質問にも柔軟な対応が可能となっている。
- ・プログラム上、パソコンを使用する演習科目「コンピュータ基礎B」では、「データサイエンス・AI概論」と異なり、対面形式で実施することにより、パソコンスキルの習熟度によって担当教員やTAがサポートする体制を整えている。
- ・PCの利用やネットワーク接続等に関する質問については、専門部署が学生対応をしている。
- ・学内全域で無線LANを整備し、BYODに対応している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける仕組みとして、次のようなものを設けている。

- ・プログラムを構成する科目を担当する専任教員は、オフィスアワーを活用して学習指導を行うとともに質問を受け付けている。
- ・その他、manaba(学修支援システム)のスレッド機能を活用して、いつでも質問を受け付ける仕組みを設けており、他の学生が質問した内容とその答えをすべての履修者が閲覧可能な状態としている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

情報リテラシー教育検討部会	
(責任者名) 山倉 健詞	(役職名) 部会長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	情報リテラシー教育検討部会は、大妻データサイエンス・AIプログラムの履修・修得状況を調査の上、プログラムに関する自己点検・評価報告書に掲載し公表する。
学修成果	情報リテラシー教育検討部会は、当該部会が実施する「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」において、プログラムを構成する科目の到達目標に達したか確認し、自己点検・評価報告書に掲載し公表する。また、大妻データサイエンス・AIプログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」の成績分布を調査し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	学生の内容の理解度については、大学が組織的に実施している「授業改善のためのアンケート」における【設問9】「この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか」および【設問10】「あなたは授業に満足しましたか」において確認し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。その結果は、情報リテラシー教育検討部会でも情報共有されるとともに、自己点検・評価報告書に記載し公表する。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	後輩等他の学生への推奨度は、情報リテラシー教育検討部会が実施する「大妻データサイエンス・AIプログラム修了者アンケート」において、「友だちや後輩に受講を検討している人がいたら、プログラムをお勧めすることができますか」という設問を設け確認し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。その他、同アンケートでは「プログラムについての感想や、改善してほしい点等があれば記入してください」という自由記述設問も設け、学生視点の改善点も確認している。 なお、これらの結果については、本学ホームページで公表するとともに、自己点検・評価報告書にも記載する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	全学的な履修者数、履修率については、毎年情報リテラシー教育検討部会において共有し、現在行っている計画の効果を点検する。また、履修希望者の経年変化を踏まえ、希望者数が計画通り増加した場合は、他の情報リテラシー科目の開講コマ数と調整の上、増コマすることを全学共通科目調整委員会(全学共通科目のコマ数を審議する委員会)に提案する。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムでは、令和6年度に1名の修了者が出たが、これが1年生であったため、令和7年度以降に修了者の進路や活躍状況等を確認していくこととなる。</p> <p>本学が提携や協力をお願いしている企業等産業界から、教育プログラムの内容や手法等への意見を聴取する機会を年に1回設けている。その意見は整理した上で自己点検・評価報告書に記載し公表する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>プログラムの共通科目である「データサイエンス・AI概論」では、授業のガイダンスとして、初回授業の前にプレ授業を設け、「学ぶことの楽しさ」「学ぶことの意義」を説明している。</p> <p>また、大学を含む複数学部で担当することにより、学生自身の今後の学修と関係のある内容も含めることでデータサイエンスやAIについて「学ぶことの意義」を伝える工夫をしている。</p> <p>さらに担当教員がシラバスを執筆する際に参考とする『授業概要』では、データサイエンス・AIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」に重きを置くことを記した。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学では、情報リテラシー教育検討部会において、各種アンケート調査、成績分布などを参考に自己点検・評価を行うとともに、データサイエンス分野に関する協定を締結した企業との意見交換を年に1回行い、社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえた教育内容の見直しを行っている。</p>

学科組織	すべて対象
開講年度学期	2024 すべて対象
授業科目	データサイエンス・A I 概論
担当教員	部分一致で検索
開講キャンパス	すべて対象
科目授業種別	すべて対象
曜日	<input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日
時限	<input type="checkbox"/> 1限 <input type="checkbox"/> 2限 <input type="checkbox"/> 3限 <input type="checkbox"/> 4限 <input type="checkbox"/> 5限 <input type="checkbox"/> 6限 <input type="checkbox"/> 7限 <input type="checkbox"/> 8限 <input type="checkbox"/> 9限
キーワード	短大
クリア	

 検索

曜日時限 ◯	授業科目 ◯	担当教員 ◯	開講区分 ◯	開講年度学期 ◯	単位数 ◯
水9	C20032130 データサイエンス・A I 概論 【短大】	山倉 健嗣/小野 茂...	週間授業	2024年度後期	2単位

1件 (1 / 1)  100

科目区分	全学共通科目【千代田・短大】	授業形態・方法	講義(オンデマンド)
科目名	データサイエンス・AI概論【短大】		
配当年次	1年	単位数	2単位
担当教員	山倉 健嗣、市川 博、小野 茂、小野 陽子、清原 康介、富浦 英一、豊田 雄彦、中川 まり、本田周二、松本 早野香、八城 薫、園田 隆志		
授業の概要・ねらい	<p>Society5.0の時代において、数理・データサイエンス・AIの素養を持った人材が求められています。一方、数理やデータサイエンス、AIと聞くと難しそうに感じる人もいます。そのため、この授業ではこれらを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」に重きを置きます。</p> <p>主に「AIやデータサイエンスが社会にもたらす価値」と「デジタル技術が行き渡る社会における課題」をテーマとして、本学の教員を中心に、具体例や最新動向等を織り込みながら、データサイエンスが様々な事象にどう関与しているかという“ストーリー”を理解してもらいます。さらにデータ活用におけるリスクや留意事項についても学びます。</p> <p>なお、この科目は文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」で求められる内容と、推奨される教育方法に基づいた授業を予定しています。</p>		
到達目標	<p>次の2点を到達目標にします。</p> <p>1.データサイエンスやAIが身近にある様々な事象とどのように関与しているかを学び、それらを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」について理解すること。</p> <p>2.データサイエンス・AIの利活用における留意事項や情報セキュリティ、情報漏洩等、データを守る上での留意事項について理解すること。</p>		
授業内容とスケジュール			
1回	<p>私たちが日常暮らす経済では、企業がデータを蓄積し活用するケースが広がっています。こうした事例の紹介を交えつつ、データサイエンスを用いたデータ分析の重要性や、データを分析するに当たって経済の仕組みを理解することの意義を説明します。また、データを活用したビジネスがもたらすメリットと課題についても考えてみます。</p> <p>【学修項目】1-1.社会で起きている変化 【講師】富浦英一（データサイエンス学部設置準備室）</p>		
2回	<p>現在の社会環境では、急速にAIの活用が進んでいます。また意識しないうちに私たちの日常的な経験を方向付ける原理として機能しつつあります。この回では、企業の現場ではどのような使い方をされているか、そしてそれが一般消費者の方々にとってどのように提供されているのか、事例紹介を通じて今後の在り方を考えていきます。また具体的に企業でサービスを提供するまでのプロセスについても事例を紹介します。</p> <p>【学修項目】1-1.社会で起きている変化／1-6.データ・AI活用の最新動向 【講師】入江洋（外部講師：東日本旅客鉄道株式会社）</p>		
3回	<p>インターネット上には、SNSへの投稿や検索キーワードなどの莫大なデータが蓄積されていますが、近年、様々な領域において、これらのデータを用いて社会を捉え、社会に存在する課題を解決するための研究が行われています。本授業では、具体的な研究事例を紹介しながら、データサイエンスの可能性について説明します。</p> <p>【学修項目】1-2.社会で活用されているデータ／1-3.データ・AIの活用領域 【講師】本田周二（人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻）</p>		
4回	<p>インターネット上には大量のデジタルデータが存在し、なかには比較的容易に分析可能な状態で提供されているものもあります。それらインターネット上のデータについて概説したのち、応用可能性が高いデータとして、第一に政府統計を、第二にSNS上の投稿について扱います。それぞれのデータとしての特性、分析手法・分析ツールの例、活用例を示し、その可能性を論じます。</p> <p>【学修項目】1-2.社会で活用されているデータ 【講師】松本早野香（社会情報学部社会情報学科社会生活情報専攻）</p>		

5回	<p>わが国では、全ての健康保険組合は、加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組が求められています。データヘルス計画は、健診・レセプト情報等のデータ分析に基づき、保健事業をPDCAサイクルで効果的・効率的に実施するための事業計画です。本講義では、データヘルス計画で取り扱う健診・レセプト情報の概要について解説します。</p> <p>【学修項目】1-2.社会で活用されているデータ/1-3.データ・AIの活用領域 【講師】清原康介（家政学部食物学科）</p>
6回	<p>現代社会では、様々なデータが企業や公共領域で分析され、広く活用されています。例えば私たちがコンビニエンスストアで買い物をした際にも購買情報はデータとして蓄積され、企業がマーケティングデータとして活用しています。公共領域でも国は統計調査を通じて国民の実態を把握し、社会の課題解決に向けてデータを活用します。この授業では企業や公共領域においてどのようなデータが利活用され、役立っているのかについて学びます。</p> <p>【学修項目】1-2.社会で活用されているデータ/1-3.データ・AIの活用領域 【講師】中川まり（家政学部ライフデザイン学科）</p>
7回	<p>データといえば従来は数値が分析の対象でしたが、インターネットの普及も含めて情報技術の進展によりテキストデータ（文章）の分析も可能になってきました。この授業ではテキストマイニングの基礎を学習し、その方法論、活用状況を学びます。</p> <p>【学修項目】1-2.社会で活用されているデータ/1-4.データ・AI利活用のための技術 【講師】豊田雄彦（短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻）</p>
8回	<p>クリエイティブな世界にもAIの活躍する場面が広がってきています。ここでは音楽とAIの関係について触れ、AIによる作曲、作詞、編曲、従来は不可能だった音源分離（同時に録音されている楽器の音などを分離する）などについて、Google Colaboratoryという実行環境で実際に触れてみます。</p> <p>【学修項目】1-3.データ・AIの活用領域/1-4.データ・AI利活用のための技術 【講師】豊田雄彦（短期大学部家政科生活総合ビジネス専攻）</p>
9回	<p>私たちは日常生活において電化製品や自動車など様々な工業製品を使っています。それらの製品を消費者が安心して使用するためには、製造段階での品質や安全性の確保が重要になります。そのために、モノ作りにおいては様々なデータが活用されています。モノ作りにおけるデータ利活用について現場のデータ収集、分析方法など具体的な事例をあげ説明します。</p> <p>【学修項目】1-4.データ・AI利活用のための技術/1-5.データ・AI利活用の現場 【講師】市川博（家政学部ライフデザイン学科）</p>
10回	<p>大量のデータが収集・解析できるようになっていますが、社会事象は実験で得られる事象と異なり、恣意性が内在しているため、要因を完全に制御できません。そのため事象を生み出す因果関係を推定し、その結果を適切に解釈するには社会事象の分析に適した手法を採用する必要があります。講義では、統計的因果推論の観点から、社会科学で使われる代表的なデータ分析の手法を事例を用いて解説します。</p> <p>【学修項目】1-4.データ・AI利活用のための技術/1-5.データ・AI利活用の現場 【講師】小野茂（社会情報学部社会情報学科情報デザイン専攻）</p>
11回	<p>情報通信技術の発展により、膨大で多種・多様なデジタルデータ（ビッグデータ）が生成・流通・蓄積されるようになってきました。しかし、その多くは文書・画像・音声・センサー記録などの非構造化データです。非構造化データから規則性を抽出する手法としてAI技術が注目されています。講義ではAI技術の中でも深層学習（ディープラーニング）と呼ばれる技法の技術的基礎と、その応用事例について簡単に紹介します。応用例では画像分類モデル(AlexNet, ResNet), 画像生成モデル(Diffusion Model), 大規模言語モデル(Transformer: BERT, GPT)の原理の概要について解説します。</p> <p>【学修項目】1-4.データ・AI利活用のための技術/1-5.データ・AI利活用の現場 【講師】小野茂（社会情報学部社会情報学科情報デザイン専攻）</p>

12回	<p>現在、人工知能（AI）はその存在を意識するかしないかに係わらず様々な場面で利用されています。スマートフォンには画像認識、音声認識や翻訳機能などが搭載され、動画配給やeコマースのサービスにおいては利用者の嗜好を推測する推薦技術が使われています。さらに、高度な画像や文書生成を行う深層学習技術も開発されています。ここではAI技術の様々な活用事例を、その技術と共に説明します。</p> <p>【学修項目】1-3.データ・AIの活用領域／1-4.データ・AI利活用のための技術／1-5.データ・AI活用の現場／3-1.データ・AIを扱う上での留意事項</p> <p>【講師】園田隆志（非常勤講師）</p>
13回	<p>データをうまく利活用できるかは、サンプリングの方法、分析データの収集方法、データの扱い方、分析結果の見せ方、解釈側の認知や意図などの影響を受けます。講義では、どのように収集されているデータかを知ることの大切さ（サンプルの偏り、データの偏り）、結果の見せ方テクニック（データに騙されない知識）、結果の解釈における人間側の問題（認知バイアス）について、体験と事例を用いて解説します。</p> <p>【学修項目】1-4.データ・AI利活用のための技術／1-5.データ・AI活用の現場</p> <p>【講師】八城薫（人間関係学部人間関係学科社会・臨床心理学専攻）</p>
14回	<p>本講義では、データ・AIを扱う上での留意事項を倫理という観点から学びます。新技術を社会で実用化する過程で生じる技術以外の課題(ELSI)や個人情報保護といった、DS以前からあるデータに関する事柄にとどまらず、DS技術により提供されるサービスの責任など、社会におけるDS技術の展開とその影響についても解説します。特に、生成AIとその社会への影響を検討します。</p> <p>【学修項目】3-1.データ・AIを扱う上での留意事項</p> <p>【講師】小野陽子（データサイエンス学部設置準備室）</p>
15回	<p>本講義では、データを守る上での留意事項を倫理という観点から学びます。情報セキュリティ(機密性、完全性、可用性)や匿名加工情報、悪意ある情報搾取について説明した上で、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例について解説します。また、XR(クロスリアリティ)やメタバース、生成AIを用いたシステムにおける倫理的問題について検討します。</p> <p>【学修項目】3-2.データを守るうえでの留意事項</p> <p>【講師】小野陽子（データサイエンス学部設置準備室）</p>
コメント	<p><プレ授業を実施します></p> <p>第1回を開講する前に、15分程度の動画を配信しますので、必ず視聴してください。</p> <p>データサイエンスやAIを活用することの「楽しさ」や「学ぶことの意義」など、本科目の講義全体の狙いについて解説します。</p> <p>【解説】山倉健嗣（副学長）</p>
授業時間外の学習（予習・復習等）	<p>講義内容を整理し復習した上で、課題に取り組むこと。（約4時間）</p> <p>そのほか、授業で得た知識、知見をもとに、データサイエンス・AIについての認識の幅を広げ、さらなる学習を進めてください。</p>
成績評価の方法及び基準	<p>各回の課題の成績による総合評価：100%</p> <p>*上記の評価とは別に2/3以上出席していない場合は単位を認定しない。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>manabaを利用してフィードバックを行う。</p>
質問などの受付	<p>manaba掲示板（スレッド）にて受け付けます。</p>

学科組織	すべて対象
開講年度学期	2024 すべて対象
授業科目	コンピュータ基礎B
担当教員	西川 徹
開講キャンパス	すべて対象
科目授業種別	すべて対象
曜日	<input type="checkbox"/> 月 <input type="checkbox"/> 火 <input type="checkbox"/> 水 <input type="checkbox"/> 木 <input type="checkbox"/> 金 <input type="checkbox"/> 土 <input type="checkbox"/> 日
時限	<input type="checkbox"/> 1限 <input type="checkbox"/> 2限 <input type="checkbox"/> 3限 <input type="checkbox"/> 4限 <input type="checkbox"/> 5限 <input type="checkbox"/> 6限 <input type="checkbox"/> 7限 <input type="checkbox"/> 8限 <input type="checkbox"/> 9限
キーワード	短大
クリア	

Q 検索

曜日時限	授業科目	担当教員	開講区分	開講年度学期	単位数
金1	C20011220 コンピュータ基礎B 【短大】	西川 徹	週間授業	2024年度後期	2単位
金1	C20011230 コンピュータ基礎B 【短大】	西川 徹	週間授業	2024年度前期	2単位

2件 (1 / 1) ◀▶ 1 ▶▶ 100▼

科目区分	全学共通科目【千代田・短大】	授業形態・方法	演習
科目名	コンピュータ基礎B		
配当年次	1年	単位数	2単位
担当教員	西川 徹		
授業の概要・ねらい	<p>当科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」で求められる内容と、推奨される教育方法に基づいた授業である。</p> <p>この授業では、すべての回で表計算ソフトウェアのExcelを使う。Excelは統計や経営学、経済学、社会学などの科目で使用することのあるデータ分析ツールでもある。これらの他科目では、Excelの使用法を習得していることによりその科目本来の目的に沿った学習を行うことができる。しかし、Excelの使用法を習得していないと他科目の授業でExcelを使った分析を行う際にExcelの操作がうまくできずに結局、その授業内容もよくわからないということが起きる。こういったことを起こさないためにもコンピュータ基礎Bを履修し、学生生活に必要なExcelの使用法を身につけよう。パソコンの基本操作（文字入力、保存、印刷など）ができる学生を対象として、表計算ソフトを使ったデータ処理の方法を演習する。Excelの基本からグラフ、データ管理、応用的な関数の使い方などを演習する。</p> <p>さらにこの授業では、多くのデータ（社会における実データを含む）から、我々が必要とする情報を抽出すること、また、その抽出結果を読み解き、それらの情報の関係を分析、考察し、表現することも目的とする。その一連の中でExcelの基礎からグラフ、データベース、応用的な関数の使い方を演習する。</p> <p>[数理・データサイエンス・AI リテラシーレベルのモデルカリキュラム：基礎2-1, 2-2, 2-3]</p>		
到達目標	表計算ソフトの基礎および応用操作ができるようになる。		
授業内容とスケジュール			
1回	ガイダンスおよびマイクロソフト Office Excelの基礎1（基本機能1） 表計算ソフト(Excel)の基本操作、ブックとシートの操作、効率的なデータの入力方法、データの種類。		
2回	マイクロソフト Office Excelの基礎2（基本機能2） 表の作成と編集、セルの書式設定、日付と時刻の編集、計算式の考え方、印刷処理（ページ設定、ヘッダーとフッター、拡大縮小設定） 等		
3回	マイクロソフト Office Excelの基礎3（基本機能3） 基本的な関数の使い方（合計、平均、最大、最小、データ件数）、表示形式の設定、データの分布、代表値の性質の違い、端数処理（四捨五入、切り上げ、切り捨て、整数化）等		
4回	マイクロソフト Office Excelによるデータ操作1（インターネットからのデータ取り込み） 相対参照と絶対参照 ビジネスで役立つ計算式の考え方、順位付け関数、簡単なIF関数		
5回	マイクロソフト Office Excelによるデータ操作2（データの並び替え・抽出・自動集計） データベースの基本操作 データの並び替え、抽出、オートフィルターとフィルターオプション		
6回	マイクロソフト Office Excelを用いた多様なグラフ作成1 グラフの種類と目的、基本的なグラフの作成と編集		
7回	マイクロソフト Office Excelを用いた多様なグラフ作成2 用途に合った様々なグラフの作成、複合グラフの作成と編集		
8回	マイクロソフト Office Excelを用いた多様なグラフ作成3 データの図表表現（棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、ヒートマップ）		
9回	マイクロソフト Office Excelの関数1 IF関数、IF関数の入れ子操作、AND関数、OR関数、RANK関数		

10回	マイクロソフト Office Excelの関数2 検索、行列関数(VLOOKUP,HLOOKUP関数 等)、エラー処理 (ISERROR関数 等)
11回	マイクロソフト Office Excelの関数3 文字列の操作(LEFT関数、RIGHT関数、FIND関数、LEN関数、REPLACE関数、TRIM関数、データベース関数、集計処理関数 等)
12回	マイクロソフト Office ExcelとWordやPowerPointとの連携1
13回	マイクロソフト Office ExcelとWordやPowerPointとの連携2
14回	マイクロソフト Office Excel 総合演習 (1) ブックの管理 集計処理、複数シートの操作と作業グループ、3D演算 (串刺し演算)
15回	マイクロソフト Office Excel 総合演習 (2) データのインポートとエクスポート ピボットテーブルとピボットグラフ
コメント	本授業では、PCを用いた実習 (アクティブ・ラーニング) を実施します。
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション/その他/PBL (問題解決型学習)
アクティブ・ラーニング (その他詳細)	本授業では、ICT (情報通信技術) を用いたプレゼンテーションおよびコミュニケーションを使用して課題の解決を行えるようにする実習を中心に、アクティブ・ラーニング形式の授業を行い、課題解決に役立つICT利用方法についてPBL (課題解決型学習) を実施します。
授業時間外の学習 (予習・復習等)	授業中にとったノート、教材を読み返して、授業内容の理解を深めておくこと。(約4時間)
成績評価の方法及び基準	授業内で指示する提出物・制作物 (30%)、平常点 (授業態度、リアクションペーパー:20%)、最終レポートもしくはテスト (50%) で評価を行う。 評価の方法及び基準については、第1回目の授業で説明する。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で適宜コメントやアドバイスをを行う。
教科書・参考書	教科書: 齊藤豊『女子大生のためのコンピュータ教科書』電気書院 2020年 ISBN978-4-485-30261-3 ※初回授業に間に合うように購入してください。
質問などの受付	第1回目の授業で説明する。



大妻女子大学

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY 2024

履修ガイド

家政学部 / 文学部 / 社会情報学部 / 比較文化学部 / **短期大学部**

全学共通科目 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の教養教育では、各学部においてそれぞれの専門の学びを深めることと効果的に接続連携しながら、本学の使命たる「学び働き続ける自立自存の女性」の育成をめざして、幅広い知識と教養の修得、そのための基礎学力の涵養と汎用的な能力、多様な視点の獲得を目標とする教育課程を編成します。

また、学部の相違によって教養教育に違いが生じることの無きよう、科目構成を全学共通カリキュラムとします。以下、全学共通科目のカリキュラム・ポリシーを掲げます。

1. 本学を創立した大妻コタカの学びへの願いを理解し、「学び働き続ける自立自存の女性」の具現を目指すために、基礎科目区分を設け、1年次必修科目の「大妻教養講座」ほか、「女性とキャンパスライフ」に関する科目を配置する。
2. 学びに必要な基礎力を身につけ、主体性、計画力、チームワークといった社会的及び職業的な自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を広く養うために、基礎科目区分に「リテラシー」「キャリア」に関する科目を配置する。
3. 現代世界の動向ならびに自分そして他者のありようを多様な視点から見つめ、価値観、興味、立場の異なる様々な他者や複雑化し変化する社会との関係をどのように構築すべきであるかを考える力を養うために、教養科目区分を設け、「人間と文化」「社会と生活」「自然と科学」に関する科目を配置する。
4. 身体感覚及び情緒能力を養い、言語化されないコミュニケーションや物事の理解の仕方があることを知るとともに、他者と共に学ぶことによって自身や他者の情緒や価値観を理解する能力を身につけるために、教養科目区分に「スポーツ」に関する科目を配置する。
5. 国際化が進む現代社会に対応し得る英語力、コミュニケーション力及び思考のための言語運用能力の向上を図るために、外国語科目区分を設け、必修科目の英語科目及びその他の外国語科目を配置する。
6. 国内外への留学、また、国内外から本学へ迎え入れる他大学生や地域コミュニティとの交流を通じ、異文化や日本文化、地域文化への関心を高め、もって文化の多様性を理解するために、地域文化・国際理解科目区分を設け、必要な科目を配置する。

1 全学共通科目について

大妻教養講座について

1年次配当の「大妻教養講座」は本学の特色ある必修科目です。皆さんの母校となる本学がどのような建学の精神・伝統・特質を持っているかを学び、皆さんが誇りと自信をもって本学での学生生活を送ることができるように応援します。さらに入学された皆さんが、本学で何をどう学ぶかという入門講座の役割も果たします。また、大学で開講する「大妻教養講座Ⅱ 卒業生から学ぶ」は2年次配当の選択科目で、「大妻教養講座」での学びを踏まえ、卒業生による講演を中心とした授業により将来像のロールモデルを見つけ、大学学修における一助となることを目的としています。

大妻データサイエンス・AIプログラムについて

文理を問わず数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識・技術について学び、データ分析において重要な概念を身につけ、身近な問題解決に活かすスキルを持つ人材を育成することを目的とした教育プログラムです。修得した単位は、卒業必要単位数に算入することができます。また、プログラム修了者には、修了証（オープンバッジ）を発行します。

教育プログラムの指定科目（合計2科目4単位を修得）

家政学部・文学部・比較文化学部・短期大学部	「コンピュータ基礎B」（2単位）と「データサイエンス・AI概論」（2単位）
社会情報学部	「情報処理実習B」（2単位）*と「データサイエンス・AI概論」（2単位）
社会生活情報学専攻 環境情報学専攻	「情報処理実習A」（2単位）*と「データサイエンス・AI概論」（2単位）
情報デザイン専攻	「情報処理実習A」（2単位）*と「データサイエンス・AI概論」（2単位）

*社会情報学部は、全学共通科目「コンピュータ基礎B」の代わりに学部共通科目の専攻指定科目（上記）を履修してください。

1 全学共通科目の卒業要件

短期大学部 家政科

(2024年度入学生から適用)

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考		
						家政専攻			生活総合ビジネス専攻			食物栄養専攻					
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択			
基礎科目	Ⅰ女性とキャンパスライフ	大妻教養講座	1	半期	講義	1] 2] 2] 2		
		コタカ学	1	半期	講義	1											
		キャンパスライフとメンタルヘルス	2	半期	講義	1・2											
		女性と健康	2	半期	講義	1・2											
		ジェンダーと社会生活	2	半期	講義	1・2											
		女性史	2	半期	講義	1・2											
		リーダーシップ開発	2	半期	演習	2											
	Ⅱリテラシー	日本語A(文章表現)	2	半期	講義	1											
		日本語B(口頭表現)	2	半期	講義	1・2											
		日本語C(読解)	2	半期	講義	1											
		コンピュータ基礎A	2	半期	演習	1		2						2	2		
		コンピュータ基礎B	2	半期	演習	1											
		データサイエンス・AI概論	2	半期	講義	1											
	Ⅲキャリア	キャリア・ディベロップメント・プログラムI	2	半期	演習	1・2											
		キャリアデザインI	2	半期	講義	1											
キャリアデザインII		2	半期	講義	1・2												
教養科目	Ⅰ人間と文化	文学の世界	2	半期	講義	1・2											
		音楽の世界	2	半期	講義	1・2											
		美術の世界	2	半期	講義	1・2											
		地域と文化	2	半期	講義	1・2											
		言語と文化	2	半期	講義	1・2		2									
		日本の歴史と文化	2	半期	講義	1・2											
		世界の歴史と文化	2	半期	講義	1・2											
		哲学と思想	2	半期	講義	1・2											
		日本文化・事情	2	半期	講義	1・2											※外国人留学生優先
	Ⅱ社会と生活	法律と現代社会	2	半期	講義	1・2											
		政治と現代社会	2	半期	講義	1・2											
		経済と現代社会	2	半期	講義	1・2		2	3			8					
		メディアと現代社会	2	半期	講義	1・2											
		SDGsと現代社会	2	半期	講義	1・2											
	Ⅲ自然と科学	生活の化学	2	半期	講義	1・2											
科学と環境		2	半期	講義	1・2												
生命の科学		2	半期	講義	1・2		2										
自然科学の歴史		2	半期	講義	1・2												
Ⅳスポーツ	スポーツA	1	半期	実技	1・2												
	スポーツB	1	半期	実技	1・2		1										
	スポーツと健康	2	半期	講義	1・2												

区分	授業科目名	単位	期間	講義・演習等の別	配当年次	卒業必要単位数									備考	
						家政専攻			生活総合ビジネス専攻			食物栄養専攻				
						必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択		
外国語科目	英語 I A	1	半期	演習	1] 1] 1] 1				
	英語 I B	1	半期	演習	1											
	英語 II A	1	半期	演習	2											
	英語 II B	1	半期	演習	2											
	フランス語 I	1	半期	演習	1											
	フランス語 II	1	半期	演習	1											
	ドイツ語 I	1	半期	演習	1											
	ドイツ語 II	1	半期	演習	1		1									
	中国語 I	1	半期	演習	1											
	中国語 II	1	半期	演習	1											
	韓国語 I	1	半期	演習	1											
	韓国語 II	1	半期	演習	1											
	日本語 I	1	半期	演習	1											
日本語 II	1	半期	演習	1											※外国人留学生対象	
国際理解科目・地域文化	地域文化理解 I	2	集中	演習	1・2											
	地域文化理解 II	2	集中	演習	1・2											
	地域文化理解 III	2	集中	演習	1・2											
	国際理解（海外研修）I	2	集中	演習	1・2											
	国際理解（海外研修）II	2	集中	演習	1・2											
	国際理解（海外研修）III	2	集中	演習	1・2											
	国際理解（海外研修）IV	1	集中	演習	1・2											
	国際理解（海外研修）V	1	集中	演習	1・2											
最低履修単位数						5	10	3	5	1	8	5	8	0		
						18			14			13				

注(1) この表は、全学共通科目の卒業要件である。専門教育科目については、各学科の項を参照すること。

注(2) 上記の全学共通科目の配当年次は変更になることがあるので、授業時間割で確認すること。

注(3) 外国語科目Ⅱを履修する者はⅠを修了しているか同程度の力を有することがのぞましい。

情報リテラシー教育検討部会内規

令和5年6月5日 制定

(趣旨)

第1条 この内規は、大妻女子大学全学共通科目調整委員会規程(令和4年2月8日制定)第6条に基づき、情報リテラシー教育検討部会(以下「部会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 部会は、大妻女子大学全学共通科目調整委員会(以下「調整委員会」という。)の運営方針に基づき、次の各号に掲げる事項に関する業務を行う。

- (1) 全学共通科目の基礎科目区分Ⅱリテラシーのうち、情報リテラシー科目の企画・運営・人事等に関する事項
- (2) 大妻データサイエンス・AIプログラムの自己点検・評価および改善に関する事項
- (3) 部会内規の改廃に関する事項
- (4) その他、調整委員会委員長からの依頼事項

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 調整委員会委員長の指名する専任教員 若干名
 - (2) 教育支援センター部長
 - (3) 教育支援センター教育支援グループ課長
 - (4) 教育支援センターメディア教育開発グループ課長
 - (5) 多摩事務部教育支援・学事グループ課長
 - (6) その他部会長の推薦する者 若干名
- 2 第1項第1号、第5号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(部会長)

第4条 部会に部会長及び副部会長を置く。

- 2 部会長及び副部会長は調整委員会委員長が指名する。
- 3 部会長は部会を代表し、その業務を掌理する。
- 4 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代行する。

(会議)

第5条 部会長は、必要に応じて部会を招集し、その議長となる。

- 2 部会は、委員の過半数の出席をもって成立する。
- 3 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 4 部会長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。
- 5 部会で検討した事項は、必要に応じ、調整委員会の承認を得るものとする。

(委員以外の出席)

第6条 次の各号の者は部会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 調整委員会委員長
- (2) 部会の同意を得て部会長が必要と認めた者

(庶務)

第7条 部会の庶務は、教育支援センターメディア教育開発グループが行う。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、部会の運営に関して必要な事項は、部会で定め、調整委員会に報告する。

(内規の改廃)

第9条 この内規の改廃は、調整委員会において行う。

附 則 (令和5年6月5日 全学共通科目調整委員会)

この内規は、令和5年6月5日から施行する。

附 則 (令和7年3月3日 全学共通科目調整委員会)

この内規は、令和7年4月1日から施行する。

情報リテラシー教育検討部会内規

令和5年6月5日 制定

(趣旨)

第1条 この内規は、大妻女子大学全学共通科目調整委員会規程(令和4年2月8日制定)第6条に基づき、情報リテラシー教育検討部会(以下「部会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(所掌事項)

第2条 部会は、大妻女子大学全学共通科目調整委員会(以下「調整委員会」という。)の運営方針に基づき、次の各号に掲げる事項に関する業務を行う。

- (1) 全学共通科目の基礎科目区分Ⅱリテラシーのうち、情報リテラシー科目の企画・運営・人事等に関する事項
- (2) 大妻データサイエンス・AIプログラムの自己点検・評価および改善に関する事項
- (3) 部会内規の改廃に関する事項
- (4) その他、調整委員会委員長からの依頼事項

(組織)

第3条 部会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 調整委員会委員長の指名する専任教員 若干名
 - (2) 教育支援センター部長
 - (3) 教育支援センター教育支援グループ課長
 - (4) 教育支援センターメディア教育開発グループ課長
 - (5) 多摩事務部教育支援・学事グループ課長
 - (6) その他部会長の推薦する者 若干名
- 2 第1項第1号、第5号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(部会長)

第4条 部会に部会長及び副部会長を置く。

- 2 部会長及び副部会長は調整委員会委員長が指名する。
- 3 部会長は部会を代表し、その業務を掌理する。
- 4 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代行する。

(会議)

第5条 部会長は、必要に応じて部会を招集し、その議長となる。

- 2 部会は、委員の過半数の出席をもって成立する。
- 3 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 4 部会長が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。
- 5 部会で検討した事項は、必要に応じ、調整委員会の承認を得るものとする。

(委員以外の出席)

第6条 次の各号の者は部会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 調整委員会委員長
- (2) 部会の同意を得て部会長が必要と認めた者

(庶務)

第7条 部会の庶務は、教育支援センターメディア教育開発グループが行う。

(補則)

第8条 この内規に定めるもののほか、部会の運営に関して必要な事項は、部会で定め、調整委員会に報告する。

(内規の改廃)


第9条 この内規の改廃は、調整委員会において行う。

附 則 (令和5年6月5日 全学共通科目調整委員会)

この内規は、令和5年6月5日から施行する。

附 則 (令和7年3月3日 全学共通科目調整委員会)

この内規は、令和7年4月1日から施行する。

大学等名	大妻女子大学短期大学部		申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	大妻データサイエンス・AIプログラム		申請年度	令和 7 年度

プログラムの目的

データサイエンスとは、現代社会のあらゆる分野で蓄積されているさまざまなデータを収集・分析し、有効に活用する学問です。変化を続ける現代社会では、自らが研究したい専門分野の知識に加えて、データ処理能力や分析力を身につけた人材が求められています。

「大妻データサイエンス・AIプログラム」は、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識・技術について学び、データ分析において重要な概念を身につけ、身近な問題解決に活かすスキルを持つ人材を育成することを目的とした教育プログラムです。このプログラムの修了者には、数理・データサイエンス・AIの基礎的な知識・技術について学び、身につけた者として、オープンバッジ（デジタル修了証）を授与しています。



オープンバッジ

身に付けられる能力

- ・データサイエンスやAIが身近にあるさまざまな事象とどのように関係しているかを学び、それらを活用することの楽しさや学ぶ意義について理解する。
- ・データサイエンスやAIを活用する上での留意事項や情報セキュリティ、情報漏洩等、データを守る上で留意すべき事項について理解する。
- ・社会における実データを含む多くのデータから、必要とする情報を抽出するスキルを身につける。
- ・抽出結果を読み解き、それら情報の関係を分析、考察し表現できる力を身につける。

開講されている科目の構成

学 科	科 目
家政科	「コンピュータ基礎B」（2単位）と「データサイエンス・AI概論」（2単位）の2科目4単位

修了要件

上記に示された表のとおり、所属する学部や専攻の別により、それぞれ指定された合計2科目4単位を修得することでプログラムの修了となります。

実施体制

運営責任者：情報リテラシー教育検討部会長
 プログラムを改善・進化させるための体制：情報リテラシー教育検討部会
 プログラムの自己点検・評価を行う体制：情報リテラシー教育検討部会

